

ベターリビングの職員が ISO/TC92/SC2 国際会議に参加しました

2025 年 7 月 31 日
一般財団法人ベターリビング

つくば建築試験研究センター(TBTL) 性能試験研究部の野中 峻平主任試験研究役が、5 月 11 日から 14 日にかけて、ノルウェー・トロンハイム郊外にある RISE Fire Research AS で開催された ISO/TC92(火災安全)傘下の WG1(一般要求事項)会議、WG2(計算法)会議、WG3(ドア、シャッター及びガラス入り部材)会議、WG4(換気ダクト及び防火ダンパー)会議、WG8(噴流火災)会議および WG11(炭化水素火災及び類似のガス爆発火災)会議に、日本の代表委員の一員として現地参加しました。

WG1では建築の主要構造部の試験方法や共通事項について、WG2では試験結果からその適用性拡張を目的とする計算法について審議されています。また、WG3および WG4のように試験対象ごとに試験方法等規格が必要な場合や、WG8および WG11のように通常の火災性状と異なるケースを想定した規格については各 WG で審議されています。

各 WG は Convenor(議長)が中心となり、WD(Working Draft:規格原案)、CD(Committee Draft:委員会原案)、DIS(Draft International Standard:国際規格案)、FDIS(Final Draft International Standard:最終国際規格案)と、立案から各国の投票に至るまで、慎重に審議を重ねながら規格の整備が進められています。なお、日本の審議団体の意見集約は国内委員会で行われており、TBTL はこれに従来から参加し、規格案への意見提出などを行っています。

WG2(計算法)では、建築研究所の水上点晴氏が Convenor を務めており、TS(Technical Specifications:技術仕様書)21721「非耐力間仕切壁の耐火被覆厚の算定手法」の CD 文書作成を日本主導で進めています。また、同算定手法の活用方法も日本から積極的に提案しており、その根拠となる実験を TBTL で行った実績があります。今回の会議では、技術仕様書である TS21721 の WD(規格原案)が回覧され、現在、各国からの意見が寄せられているところです。また、WG1 では各国の耐火試験装置に関する情報共有や、試験方法とその評価基準について意見交換を行いました。次回以降も引き続き検討を進める予定です。

当財団では、今後も国際規格の整備に関する会議に積極的に参画し、国内外の火災安全性の向上に貢献できるよう努めてまいります。



写真 トロンハイムの街並み(左)と会議会場(右、RISE Fire Research AS)